

## 文化・芸術

No. 99 「Fresh e man」

1980年、  
アクリル・カンバス

上田薫 (1928年)

常設展示における展示室3では「1960～80年代の日本の美術」として、現代美術の作品を展示しています（現在は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館中）。その中の一点が本作です。

1970年代に米国で生まれたスーパーリアリズムは、複雑化する現実を前に、何を見るのかという問い、どのように見るのかという問いに、写真を使って人間の視覚の能力をこえたリアルなイメージを表現しました。その流れをくむ上田薫も、「絵は人間の錯覚を利用したいかさまですよ」と告げているように、実際には肉眼では追えない瞬間を、あたかも見ることができたように描いています。

この作品は、リアル（現実）をこえたリアリティー（迫真性）のせいでしょうか、夏休みや学校の授業などで来館する小学生、中学生たちにはとても人気があります。  
(田中)

〈名画の扉〉

休館中の大川美術館から

